

## 利用者からの報告

### ガラス細工体験講習は楽しい！

寺西 章江 (てらにし あきえ)

所属：大学運営本部 研究支援課

専門分野：通訳案内士(英語)、キャリアコンサルタント

趣味：書道、まち歩き、料理



ポオーッと目の前で火柱が上がった。ガスバーナーを扱うなど、遥か昔の高校時代以来か。むき出しの炎が、すぐ目の前にある。少し怖い。ガラス細工体験講習に参加したことを、少し後悔していた。ガラス器が好きなこと、また、工作技術センターが研究支援課の一部門であることから、以前から受けたかった講習会に同僚が申し込んでくれ、今まさにマドラーを作ろうとしている。

バーナーでガラス素材を熱してから、火から離してピンセットで成形する、言葉にするとそんな簡単なことが、なかなか出来ない。ピンセットでガラスを挟んだままバーナーで炙りそうになったり、逆にバーナーで折角熱したガラスをどう扱ってよいか悩んでいるうちにタイミングを逃し、また冷えてしまったり。それでも、何回かそんなことを繰り返すうち、成形のタイミングがつかめてきた。

次のステップは、希望の形に整えることなのだが、これは更に難関である。丸と思えば角、角と思えば丸になり、もどかしい。人間関係のようだ。イルカの形を作ろうと思っているのに、気付いたらスズメかハトみたいになっている。これまた、人生のようだ。とうとう、どうしようもなくなり、技術職員である講師に教を乞う。私の手元のハトが講師に渡ると、あっという間にキュートなイルカになる。救われた。後は、イルカをハトに戻さないよう、自分の手元で慎重に加工する。他の参加者も、各々真剣に取り組まれており、適宜講師の指導を受け、作品を仕上げてもらった。

最初感じた恐怖感は、どこへやら、夢中になって取り組んでいるうち、あっという間に講習時間が終了した。楽しかった。作品を大事に持って帰り、使ってみるのも嬉しい。

大阪天満宮の門前に「大阪 ガラス発祥之地」碑があるが、長崎で学んだ商人が大阪でガラスづくりを広めたおかげで、大阪は日本におけるガラス製造先駆の地と言われている。私は20年以上前に、長崎訪問時 地元の友人に誘われて吹きガラス教室に参加したことがあるが、今では大阪でもガラス教室が身近なものになっている。施設の問題もあるだろうが、大阪人がガラスに親しむ機会が更に増え、発祥の地復権につながれば良いと思う。そういった意味でも、本学の工作技術センターは大変貴重な場であると、再認識した次第である。